

令和元年度 第1回白馬村総合教育会議 議事録

- 1 日 時 令和元年12月23日(月)
開会 午前10時00分 閉会 午前11時40分
- 2 会 場 白馬村役場2階 庁議室
- 3 出席者 白馬村長 下川 正剛
白馬村教育委員会
教育長 平林 豊
職務代理 幅下 守
委 員 伊藤 公一
委 員 西澤みどり
委 員 田口 令子

(説明等のために出席した職員)

総務課長 吉田 久夫

(事務局)

生涯学習スポーツ課長 関口 久人
教育課長兼子育て支援課長 田中 克俊
母子保健係長 内山 明子
給食保健係長 堤 則昭
教育係長 鈴木 広章
子育て支援係長 松澤 拓哉

- 4 協議事項 (1) スクールバスの運行について
(2) 小学校統合について
(3) 子ども・子育て支援事業計画について

5 議事の概要

○開 会

教育課長兼子育て支援課長が開会を宣言した。

○あいさつ(下川村長)

皆様、おはようございます。昨夜から降雪がありましたが期待したような積雪になりませんでした。大勢のお客様に来ていただけるよう順調な降雪を期待していると

ころです。

本日はご多忙の中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。本年度第1回の総合教育会議を開催させていただきます。

昨年度の当会議では、教育のあり方についての検討として、学校の統合についての協議を始めたところです。令和2年度からは、この教育のあり方についての検討を加速させる予定であります。総合教育会議での議論も重要になってくることと思います。委員の皆様から忌憚のないご意見をいただきながら、村と教育委員会が意思疎通をはかることで、一層の効果的な教育行政の推進へとつなげていきたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

○協 議 （議長は下川村長）

(1) スクールバスの運行について

- ・教育係長が、会議資料により説明した。

- ・議長が、スクールバスの運行についての発言を求めた。
- ・総務課長 公共交通の進め方、公共交通網の形成については、スクールバス・コミュニティバスと冬期スキーバスの集約について事業者と協議している。公共交通既存資源のデマンドタクシーと索道バスの一元化を図りたい。冬期の公共交通の集約は可能と考えているが、現在のところ経費の算出には至っていない。
コミュニティバスと索道バスの運行については決まっていないが、スクールバスについては調整事項が少なく、試験運行が可能と考えている。このルートは大型バス、このルートはマイクロバスでといった調整は必要で、現在作業を進めている状況ではあるが、来年度予算に計上して試験運行を行いたい方針である。
- ・議長 委員の皆様、質問はありますか。
- ・教育長職務代理者 具体的に進めていただき有難い。大町市では3km以上はマイクロバス、タクシーの通学を進めている。私は飯森区在住だが、車で通学している児童は殆どおらず、皆よく歩いている。しかし、安全面を含めてスクールバスの運行を進めてもらいたい。
- ・議長 みそら野は2ルート、2便体制だが、どういうことか。
- ・教育課長 みそら野区は広域且つ、乗車人数も多いので2ルート、2便体制としている。平成22年のクマ出沒時の緊急対応時にこのような体制で行っている。この度の恒久的な運行に関しては、2便での運行時間については再考の余地がある。また、南小は平成22年時にめいてつ区の児童を乗せたバスが、飯森区を歩いている児童を抜いていったこともあった。行きに関しては、めいてつ区で乗せて、飯森区で下ろし、飯森区の児童と一緒に歩くようなことも考えなければならない。
- ・議長 クマの出沒と冬期の道路状況から、スクールバス運行の要望は非常に多くいただいている。停留所の位置、各家庭の状況、遠距離通学費補助の在り方など、調整事項は多岐にわたるが、試験運行は何とか実現したい。有償か無償かの検討はしているのか。

- ・教育課長 有償での運行は考えていない。
- ・教育長 スクールバスは専用であるので無償となるが、公共交通に同乗するようであれば、有償になると考えている。
- ・総務課長 スクールバスを運行した場合には普通交付税の対象となる。公共交通に同乗する場合には特別交付税の対象となる。冬期の公共交通一元化を考えると、ハイシーズンのバスの台数確保が難しい。スクールバス運行については、調整のうえでの台数確保は出来るものと思われる。
- ・西澤委員 客の立場として、保護者の立場として、児童と観光客が同乗するのは如何か。
- ・総務課長 観光客との同乗は考えていない。車両のやりくりの問題と、索道バスは運転手確保が難しく辞めたい意向である。限られた資源をどう活用するのか最善策を採りたい。
- ・西澤委員 スクールバスでは朝・夕の需要しかない。どのように調整できるのか。
- ・教育課長 以前は、車両を買って、運転手を雇用して自前で運行させることから、公共交通の形成が始まり、運行事業者に委託することに移行してきた。車両の安全管理、運行管理をしっかりと行う緑ナンバーの事業者へ委託したい。
- ・議長 緑ナンバーの事業者でなければ委託できないか。
- ・総務課長 村が委託して運行するのであれば監理体制を含め、緑ナンバー事業者としたい。
- ・議長 みそら野区の2便往復の時間は難しく感じる。今後調整をしっかりと行って欲しい。
- ・教育長職務代理者 委託先はあるのか。大町市では金額と委託内容から、運行を止めたいと事業者が言っているようだ。
- ・教育課長 そういった事態にならないように、朝・夕の運行だけでなく、昼間もコミュニティバスとして運行してもらおう可能性を探ってきた。
- ・議長 落倉では路線バスが走っていたが、使い勝手が悪く、またバス停留所まで保護者が送るようになった。その後、どうせ送るなら学校まで送っていくようなこととなり、路線バスがなくなったように聞いている。そんな話は聞いていないか。
- ・教育長 教育委員会では聞いていない。しかし、保護者が変われば要望も変わる可能性はある。
- ・教育課長 保護者により要望は異なるのかもしれないが、教育委員会としては、通学の安全確保の観点から、スクールバス運行の必要性を訴えている。
- ・議長 停留所から家までの部分の協議も重要だ。停留所まで来たがバスは出発した後だった、停留所からは1人で家まで歩かなければならない等様々なことが考えられる。保護者と話し合いを密にして進めて欲しい。
- ・伊藤委員 スクールバスの運行には保護者の理解と協力は必須であるが、試験運行は是非進めて欲しい。
- ・総務課長 試験運行の期間は来年度1年間フルに通してとは考えていない。期間についてはこれから調整するが、年度当初からの試験運行は難しいと考えている。

(2) 学校統合について

- ・教育係長が、会議資料により説明した。
- ・議長が、小学校統合についての発言を求めた。
- ・議長 白馬北小は、大北地域でも大規模な小学校なのか。
- ・教育長職務代理者 松川・大町北と大きな学校があるが、その次に白馬北小の人数が多いのではないか。
- ・議長 統合の検討は進めなければならないが、どういった形で進めていくか。何年掛けて進めていくか考えなければならない。
- ・教育長職務代理者 0から検討するのか、統合を前提に考えていくのか。大町市は教育のあり方から検討を始めた。池田町は統合を前提とし、保小中一貫教育を打ち出した。様々な方法がある。
- ・総務課長 個別計画や立地適正化計画とも整合性をとる必要がある。
- ・教育長 施設の耐用年数があるので、新校舎の建築が予算的に可能か否かを考える必要がある。期間を設定して進めなければならない。
- ・議長 以前は複式学級になったときには統合を進めるという話があったが、南小は複式学級にはならないのか。
- ・教育課長 複式学級にはならないと予測している。
- ・議長 学校の後利用の計画はあるのか。
- ・総務課長 そこまで計画はない。1つの学校に統合することで、新学校の魅力度をどう高められるかが課題だと思う。
- ・伊藤委員 コスト面も大事であるが、児童の教育環境を第一に考えて欲しい。
- ・議長 何れにしても来年度からの検討を進めるが、住民の声、保護者意見、予算等を総合的に考える中で、慎重かつ丁寧な議論を進めて欲しい。

(3) 子ども・子育て支援事業計画について

- ・子育て支援係長が会議資料により説明した。
- ・議長が、子ども・子育て支援事業計画に関しての発言を求めた。
- ・総務課長 基本理念に「生き生き」とあるが、平仮名表記がふさわしくないか。
- ・子育て支援課長 子ども・子育て支援事業計画は、次世代支援育成行動計画を併せた計画になる。ここには児童福祉分野に留まらず、生涯学習スポーツ課の青少年健全育成や、少子化対策、総務課所管の交通安全の分野も含まれる。
- ・議長 平成29年に組織改革を行い子育て支援課を創設した。ここで0歳から18歳までの窓口を一元化した。また、子育て支援課の新事業、子育てオンライン、産婦人科オンライン、母子モの運用を予算化してきた。村民の評価はどうか。
- ・子育て支援課長 子育ての情報も一元化され、連携は良くなった。評価は子育てに関連する苦情が無いことが評価結果だと思っている。
- ・母子保健係長 保健師の立場から現在の子育て支援課の体制は、課内で連携が取れ、非常に良いと感じる。健康福祉課の保健師とも職務の整理が出来ており、問題ない。
- ・議長 これからも子育て世代により良い施策の構築に努めて欲しい。

○その他

- ・議長 給食センターが調理開始から1年を迎えようとしている。運営で問題点はあるか。
- ・給食保健係長 年度当初は様々な試行錯誤があったが、調理方法・センター運営が固定化されてきた。施設は大切に使用していく。
- ・議長 白馬高校に弁当を供給することも今後の検討課題として欲しい。
- ・西澤委員 白馬高校の保護者は弁当の提供をして欲しいと思っている。高校に弁当を提供している自治体は無いかもしれないが、前向きに考えて欲しい。
- ・教育課長 最大食数850食で設計されており、現在約750食を提供している。もう少し児童生徒数が減ってくれば検討できるかもしれない。

○閉会

- ・教育課長兼子育て支援課長が閉会を宣言した。